

岡崎市議会議長 様

支出番号	
------	--

会派名	チャレンジ岡崎
代表者名	杉山 智騎

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和 6 年 3 月 29 日提出

活動年月日	令和 5 年 7 月 31 日（月）～ 8 月 2 日（水）	
氏名	小田 高之、杉山 智騎、近藤 敏浩	
用務先 及び 内 容	1 7月31日	用務先 茨城県日立市
		内 容 新交通導入事業について
	2 8月1日	用務先 山形県山形市
		内 容 Q1プロジェクト推進事業について
	3 8月2日	用務先 岩手県紫波町
		内 容 オガールプロジェクトについて
	4	用務先
		内 容
備 考		

令和 5 年度 行政視察報告書

令和6年3月29日(木)

チャレンジ岡崎 小田 高之

杉山 智騎

近藤 敏浩

1. 視察日程

令和5年7月31日(月)～
8月2日(水)

2. 視察先及び視察内容

(1) 茨城県日立市
新交通導入事業に
ついて

(2) 山形県山形市
Q1 プロジェクト推進事業について

(3) 岩手県紫波町
オガールプロジェクトについて

3. 視察内容

■視察先：茨城県日立市

7月31日(月)

i) 視察内容

・ひたち BRT の概要

＜整備内容＞

□専用道路計画区間：旧久慈駅
～日立駅

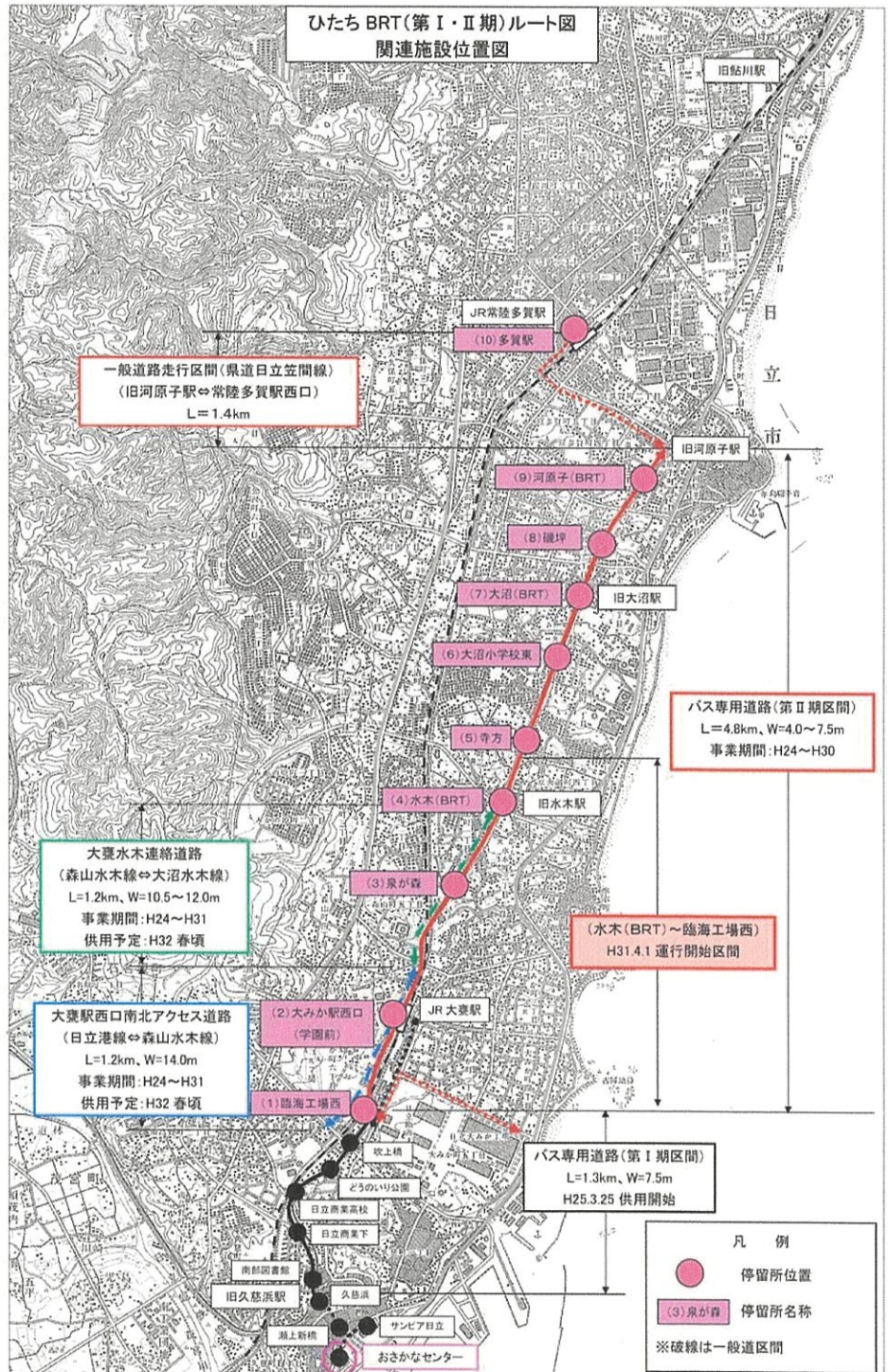
第1期：旧久慈浜

駅～臨界工場西 1.3 km

第2期：臨海工場

西～旧河原子駅 4.8 km

□専用道路幅員：7.5m（道路4m 歩道3.5m）□停留所：700m間隔

☐待避所：すれ違い用

日立市HPより

□運行管理システム：車両接近案内・自動開閉バーゲート（車両との衝突防止のため）

□関連事業：バスターミナル、パーク＆ライド用駐車場・駐輪場、JR 大甕駅舎、大甕水木連絡道路整備

□整備費：250 百万円

<運行計画>

□運行ルート：日立おさかなセンター～日立駅

第1期：日立おさかなセンター～臨海工場
西

(2.5 km)

第2期：臨海工場西～常陸多賀駅 (6.2 km)

第3期：計画中

常陸多賀駅～日立駅

□運行時間：平日 5 時台～23 時台 休日 6 時台
～22 時台

□運行頻度：平日 概ね 5 分～20 分間隔 休日 30
分間隔

□事業主体

・専用路線整備の経緯・背景

<経緯>

平成 20 年 8 月 日立電鉄の寄付により鉄道跡地を
取得

平成 21 年 3 月 日立電鉄線跡地活用整備基本構想を策定
委員会組織（学識経験者、企業、交通事業者、地域住民等）ヒアリング、

パブリックコメント

平成 23 年 1 月 新交通導入計画を策定

平成 23 年 3 月 東日本大震災

南北主要幹線（国道 6 号 245 号）で慢性的な交通渋滞

渋滞に伴う公共交通の利便性低下、環境負荷増大、産業活動への弊害

解決策として ひたち BRT 導入決定

<BRTのメリット>

ひたち BRT は 専用線を走行、軌道不要→一定時制・速達性の確保、柔軟な運行ルート設定安価な維持管
理・整備費

ライフスタイルの変化（行動変容）沿線ブランドの確立、公共交通の利用促進

- 専用道路を走行するので、速く、決まった時間に運行できる。
- 専用車両しか走行しないので、交通事故の心配も少なく安全安心に利用できる。
- 高齢者、こどもなど自動車を運転できない市民が、手軽に快適に移動できるようになった。
- 自家用車移動に比べ、二酸化炭素排出量が少なく、環境にもやさしい。



・関係機関との連携

- ひたちBRTは 公設民営：道路など基盤整備を市が行ない運行は交通事業者が行なう
- 基盤整備に関する事業費の一部に国土交通省の交付金活用
- 市民との協働：専用バスデザイン公募、BRTサポーターズクラブ、各種イベント
- 交通結節点への施設立地



ひたちの海をデザインブルーラピッド

・利用者の声（評価・要望）について

- 学校近くに停留所があるし、運行本数が多いから、いつでも乗れるし便利。部活で遅くなっても安心。（高校生）
- 毎日通勤で使っています。車からBRTにかえて、健康にも良いから続けたい！（40代女性）
- 渋滞がなく、時間が読める。早く大沼や河原子に延びれば、もっと通勤が便利になるな！（40代男性）
- 6号線の渋滞は解消できていない。
- 民家の門に止まる停留所は住民と目が合うので気恥ずかしい。

・取組に対する実績や効果

日立市では、新交通（ひたちBRT）導入の取り組みの中で、地域住民や沿線企業・高校、商業・観光事業者などで構成する「ひたちBRTサポーターズクラブ」を組織し、BRTのあるまちを地域が自ら考えデザインする取り組みを進めてきました。

ひたちBRTの車両デザイン、停留所サイン、運行リーフレット、時刻表、沿線マップなどについても、利用者の視点からサポーターズクラブが中心となり検討を行い、これまでの路線バスとの差別化を図るとともに、地域の歴史や文化を感じさせる統一感のあるデザインを採用しました。

これらのデザインツール群における多世代が利用することを想定した落ち着いた色彩と意匠性、必要な情報を網羅しつつもコンパクトにまとめられた沿線マップの持続性などが高く評価され、平成26年度JCOMM（ジェイコム）デザイン賞を受賞しました。

ひとにも環境にもやさしいまちづくりの実現に向け、ひたちBRTの全線供用に向けた事業推進と更なる利用促進へ取組む



都市政策課職員の説明を受ける

・現在の課題、今後の展開

<現在の課題>

6号線の渋滞解消にいたっていない。→通勤時マイカーからBRTに変えることの推進

□路線の拡張で対応する。



<今後の展開>

リーフレットに掲載された沿線マップ

□ひたちBRT・駅周辺宅地創出促進事業：良好な宅地分譲を促進する。

□自動運転バスの実証実験 これまでに平成30年度、令和2年度、令和4年度の3回、実証実験を実施。

ii) 所感・岡崎市への提言

【杉山智騎】 座学を受けた後に実際にBRTに乗車して学んだことが多かった。日立市のBRTは定時制に重きを置いている。専用の走行空間を利用することにより、安全にスピードも上げずに運用できる。しかし、BRT専用道路に通常車が立ち往生(その先の渋滞の影響)していた。BRT専用道路と交差している通常道路が意外にも多くて、またその通常道路に信号も遮断機もない箇所(BRT専用道路には遮断機がある)が多数で、安全性は自動車の運転手に委ねる面が多いことが気になった。観光客や地元の人でないと、不安になることもあると推察される。専用道路での運用なので、自動運転バスの導入が期待される。平成30年度に経済産業省・国土交通省が主体となつての実証実験が行われている。今年度も9月から実証実験が行われるとのこと。ただ、自動運転バスはインシャルコストもさることながら、維持管理費が課題となり、行政として壁も大きい。自動運転バスを導入して、もっと利便性を向上させて、市民の足のメインになることを期待する。課題も多いが、非常にポテンシャルのある事業であると感じた。BRTを導入する目的の一つである渋滞緩和は今のところ効果はあまりないとのことだが、定期券や回数券などを併用したり、価格帯の見直しや、レンタサイクルを導入して相乗効果を狙うことにより、渋滞緩和効果も将来的には期待できる。本市も渋滞緩和対策と公共交通の福祉的観点を高めるためにも、ひたちBRTのような専用道路の検討も必要である。

【小田高之】 実際にBRTに乗車して学ぶ機会が多かった。日立市のBRTは時間厳守を重視しており、専用の走行空間を利用することで安全かつ効率的に運行されている。ただし、時折BRT専用道路に普通車が侵入し、それが渋滞を引き起こすことがある。また、BRT専用道路と交差する通常道路が意外に多く、そこには信号や遮断機が不足している箇所が多いことが、安全性について運転手の責任が大きいと感じた。

専用道路での運用のため、自動運転バスの導入が期待されており、経済産業省や国土交通省が主導して実証実験が行われている。しかし、自動運転バスの導入には初期コストや維持管理費の課題があり、行政としての壁も大きい。渋滞緩和がBRT導入の目的の一つであるが、現時点では効果が限定的であるとされている。しかし、定期券や回数券の併用、価格設定の見直し、レンタサイクルの導入などにより相乗効果を狙い、将来的には渋滞緩和効果も期待されている。地方自治体としても、渋滞緩和と公共交通の福祉的観点を強化するために、専用道路の検討が必要であると考えている。



桜や和傘がデザインされた風流物ウサギ

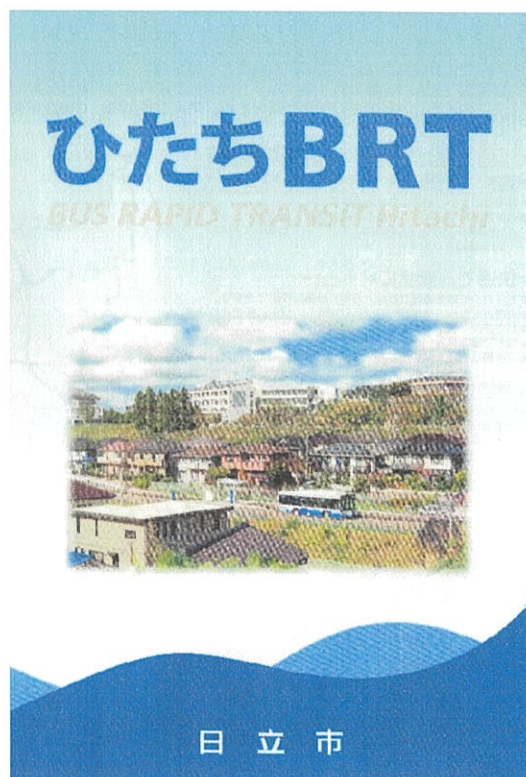
【近藤敏浩】 充実した公共交通の為には、自動運転が必須と考えます。議員となった当初より、日立市の自動運転バスを視察したいと考えていましたが、コロナ禍他の理由により今となってしまいました。

視察の内容にありますように日立市の自動運転バス路線の大半はかつて鉄軌道が運行していた場所であり専用線です。この事はバス運行の正確性への信頼向上に繋がり、バス利用者の増加につながります。本市においても渋滞が常態化している路線においては、専用通行帯など考えていただきたいと申し上げます。

鉄軌道が廃止され、自動運転バス路線へと切り替わった後、バスの停留所付近に住居が新築されるなど好循環となる事例もあったとの事です。

前述のような好事例はBRTを核としたまちづくりをすすめる日立市の姿勢によるものです。

本市では路線バス利用者の減少、運転手不足の理由により、路線・運行本数が減らされる悪循環となっております、日立市の例に鑑み、一刻も早い専用線・自動運転車の導入をお願いします。



日立市

■視察先：山形県山形市

8月1日（火） 10:00～

i) Q1 プロジェクト推進事業について

・Q1 とは

やまがたクリエイティブシティセンターQ1（キューイチ）は、創造都市やまがたの共創プラットフォーム。映画をはじめ音楽やアート、デザイン、伝統工芸、食文化などさまざまな分野において優れた地域資産をもつ創造都市として認め

られた山形市は、これからこのQ1をベースにして、市民、企業、行政が連携し、創造性を産業へとつなぎ、新たな経済活動や人材創出を図りながら、持続可能な都市をつくっていく。



Q1のモニュメント

・問いからはじまるクリエイティブ運動

2017年のユネスコ創造都市ネットワーク加盟を機に、山形市はその創造性を産業や暮らしに活かし、持続可能な都市づくりをめざす「創造都市推進事業」を推進。山形市立第一小学校旧校舎（＝旧一小）を創造都市やまがたの拠点として再整備する事業もそのひとつ。〈活用実験／施設整備／本格始動〉という3フェーズで計画され、2019年度からの活用実験では、テナント運営のトライアル、有識者や市民を交えての「クリエイティブ会議」、その他イベントなどを実施。やまがたの創造性とは？ その拠点はどこあるべきか？ という問いと対話を重ねた。それを踏まえた2021年度の施設整備フェーズは、全館の工事や事業化に向け最終調整。こうした創造都市の拠点の姿を描き出すプロセス自体もQ1というクリエイティブ運動のなかに取り込みながら、2022年9月、本格始動した。

1 EXPERIMENT	2 ADJUSTMENT	3 OPEN
活用実験フェーズ 2019 - 20年度 旧一小校舎の空きスペースを活用しながら、テナントの企画・運営及びイベントやスクールのトライアルを実施。本格始動に向けた実験期間です。	調整フェーズ 2021年度 旧一小校舎を「創造都市やまがたの拠点」として再整備し、本稼働させるための工事や、事業化への最終調整を行います。	本稼働フェーズ 2022年度 まちのクリエイティブを身近に感じられるような「創造都市やまがたの象徴的な拠点」としての運営事業を本格的にスタートします。

※HP より引用

・創造性を産業へつなぐ

やまがたクリエイティブシティセンターQ1は、創造都市やまがたの共創プラットフォーム。映画をはじめ音楽やアート、デザイン、伝統工芸、食文化などさまざまな分野において優れた地域資産をもつ創造都市として認められた山形市は、これからこのQ1をベースにして、市民、企業、行政が連携し、創造性を産業へとつなぎ、新たな経済活動や人材創出を図りながら、持続可能な都市をつ

くっていく。Q1 が最も重視しているのは、創造性を産業や暮らしにつなげていくこと。創造都市や
まがたは、創造性によって新しい経済活動や優れた人材の創出を図り、都市としての持続的な発展
をめざす。その拠点であるやまがたクリエイティブセンターQ1 は、芸術や文化を愛するひとやクリ
エイターはもちろん、すべての市民が訪れ、楽しむことのできる場所。新しい出会い、新しい交
流、新しい創造、新しいビジネス、新しい産業、新しいにぎわい、新しい未来が生まれるイノベー
ション拠点。



※HP より引用

・ユネスコ創造都市ネットワークについて：ユネスコ創造都市ネットワークとは？

2004 年に創設されたユネスコ創造都市ネットワークは、「クリエイティブこそが都市の持続的な発展をもたらす原動力」とする都市間の協力や連携を目的とし、世界 295 都市（2021 年 11 月現在）が加盟する国際的ネットワークで、各都市はクリエイティビティと文化的産業を都市の発展計画の中心に据え、国際レベルで活発に協力しあう。

・ユネスコ創造都市ネットワークについて：山形市加盟の背景

山形市が創造都市として加盟認定されたのは、「山形国際ドキュメンタリー映画祭」など独自の映画文化を醸成してきたことだが、その他にも伝統的な郷土料理や豊かな食文化があることや、山形大学や東北芸術工科大学などが拠点を構える学都であること、山形ビエンナーレが開催されるなどアートとデザインのまちであること、山形交響楽団という優れたオーケストラを有する音楽のまちであること、伝統工芸やものづくりのまちであることなど、多彩な地域資産に恵まれていることも評価のポイント。プレゼンテーションを行った佐藤市長自身も、映画にとどまらずデザイン食なども含めその多様性が認定評価の大きなポイントだったと語っている。



旧山形市立第一小学校正面玄関にて

・ユネスコ創造都市ネットワークについて：創造都市やまがたの拠点＝Q1

世界中から多くの映画関係者が集まる山形市は、クリエイティブやアートの活動を支える人材や高等教育を受けた人材を多く輩出するなど、クリエイティブ産業やその関係者数も充実している。それらを地域の企業のイノベーションにダイレクトに結びつけ発展させるような仕組みをつくり、地域産業を振興させ、若く優秀な人材が存分に働ける場を創出することが、山形の未来を大きく変えていくと考えている。このように、山形は持続可能な地域モデルを創造できる絶好の地域であるといえる。

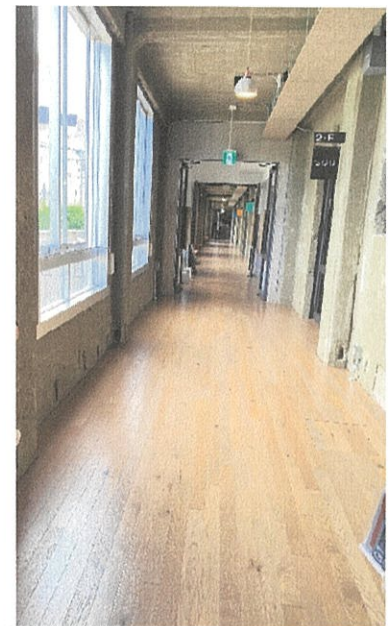
・入居テナントについて

Q1 は、クリエイティブな人材や企業等をつなぐプラットフォームとなることで、産業や文化活動のイノベーションを促し、新たな事業開拓や人材の輩出などにつなげていくことを目指している。このクリエイティブと産業を暮らしでつなぐ「創造都市やまがた」の考え方に賛同する多様なショップやオフィス、ギャラリー、アーティストスタジオなどが、Q1 に集まっている。

・公民連携 再生事業7つのポイント

Q1 プロジェクトにおける公民連携による再生事業の7つのポイント

- i) リーダーシップ（行政トップ）
- ii) パートナーシップ（行政／大学／地域企業）
- iii) キャスティング（テナント）
- iv) コントラクト／スキーム
- v) リスクシェア／プロフィットシェア
- vi) プロセス／エクスペリメント
- vii) コンテキスト／デザイン



小学校の廊下の面影が残る通路



洗練されたデザインのベンチ

・7つの事業軸

Q1 の施設運営を担う株式会社Q1 は7つの分野を軸に、山形に新たな産業を創造することをミッションに、山形の持続的発展をデザインするラボラトリーとして活動

- i) シンクタンク／ドゥータンク
- ii) 人材育成
- iii) アートマネジメント／キュレーション
- iv) 商品開発・販売・物流
- v) プロダクション
- vi) 産学連携
- vii) 施設／空間運営・マネジメント

・主なプロジェクト

Q市（マルシェイベント）

「Q市」（キューイチ）は、Q1で開催されるマルシェイベント。毎月第1日曜日の「デイマルシェ」と、第4木曜日の「ナイトマルシェ」の月2回の定期イベントとして実施。Q1を舞台に新たな交流が日々生まれている。

PlayQ（子ども向けプログラム）

PlayQ（プレイキュー）は、「こどもの創造的学びの活動を通じて〈創造都市やまがた〉を実現する」をコンセプトに、クリエイティブとテクノロジー、ビジネス、そしてエコロジーの4つの領域を行き来できる山形・東北らしい人材育成を目指した、子ども向けのプログラム。経済産業省「デザイン経営宣言」におけるBTC人材定義（＝デザインを競争力にする人材・組織・教育）をベースに、山形・東北独自の観点として「エコロジー」を加えた、4つの領域を横断できる人材を育成する。

ROOTS&Technique（直営ギャラリー／ショップ）

「あらゆるもののルーツ。それを作る技術」をコンセプトに、生活を豊かにする工芸作品やアンティークを展示・販売する、株式会社Q1が直営のギャラリー／ショップ。

YAMAGATA NEW CRAFTS（プロダクト開発）

山形の地場産業や伝統工芸とアーティストやデザイナーなどのクリエイティブを繋ぎ、新しいプロダクトを生み出すプロジェクト。また「YAMAGATA NEW CRAFTS」と冠して、プロダクト及びプロジェクト全体をブランディングし、一つのパッケージとして国内外に向け発信することで、ユネスコ創造都市ネットワークとしての山形の魅力を世界に広めていく。

シティプロモーション（山形市の魅力発信）

山形県山形市を舞台に、魅力的な活動を行う企業・人・プロジェクトなどを取り上げ、動画コンテンツとして配信。

クリエイティブ会議（トークイベント）

先進的な活躍をされているクリエイター／アーティストとQ1ディレクター陣がディスカッションする公開型の企画会議。Q1が目指す「クリエイティブと産業を暮らしで結び、それらを山形の持続可能な社会へ還元する」ための具体的な方法論や事業の可能性を探る。

TabloidQ（バイリンガル情報誌）

Q1のコンテンツやイベント、テナントなどをバイリンガルで紹介するフリーペーパー。Q1のガイドブックでもあり、そしてまた「クリエイティブやまがた」を知るきっかけにもなる季刊の情報誌。



ii) 所感・岡崎市への提言

【杉山智騎】

やまがたクリエイティブセンターQ1 を実際に訪問し、現地で説明を受けながら視察を行った。まず建物のすばらしさに驚いた。山形市立第一小学校旧校舎（＝旧一小）は昭和2年に建てられた、山形県初の鉄筋コンクリート造の学校建築。1階は綺麗にリノベーションを行い当時の面影は少ししか感じられないつくりとなっているが、2、3階は当時を感じるようなつくりとなっている。荒々しさを感じながらも、地元の人からは懐かしさも味わる。コンセプトもこだわりがあり、入所を希望する全てを受け入れる体制ではなく、きっちりと選別している。その甲斐もあってか、入居しているテナントはクリエイティブなものが多かった。テナント間の交流も図っているが、満足できる段階ではなく今後に期待が持たれる。駅からも近く、アクセスが便利で、人の交流拠点になっている。本市としては中心市街地にこのような歴史的建築物は少ないが、無いことはない。本市としてもとがった事業を恐れず行っていく度胸をもう少し養っていく必要があると感じた。トップダウンという流れもあり山形では順調にいつている。岡崎市の特徴を最大限に生かせるような、例えば、モノづくり、中山間、YouTuber などのコラボ、相乗効果を狙っていく必要があり、積極的に行っていくほしい。



【小田高之】

やまがたクリエイティブセンターQ1 は、山形市における貴重な歴史的建築物でありながら、現代のクリエイティブ産業の拠点として新たな役割を果たしている。特に驚いたのは、昭和2年に建てられた鉄筋コンクリート造の山形県初の学校建築でありながら、リノベーションを受けた1階と当時の趣を残す2階と3階の対比である。建物内に入ると、その歴史を感じつつもクリエイティブな空気が漂っており、地元の人々にとっても観光客にとっても魅力的

な空間であることが理解できた。

センターの運営方針も興味深い。入所を希望するすべてのテナントを受け入れるのではなく、厳選することでクリエイティブなシナジーを生み出している点が評価される。また、テナント同士の交流を促進する取り組みもあり、これが今後の発展に向けた好材料であると感じた。地域の文化と経済の活性化に寄与するセンターとして、地域社会にとって重要な役割を果たしていることが明らかであり、そのアクセスの便利さも地域の人々の利便性を高めていると感じた。

一方で、さらなる成長が期待される点もある。例えば、テナント間の協働をさらに深めて新たな価値を創造する取り組みや、地域外からのアクセスを増やす施策が挙げられる。これにより、クリエイティブセクターの拡大や地域経済への波及効果が期待できるだろう。

総じて、やまがたクリエイティブセンターQ1 は、歴史と現代の融合を体現し、地域社会に新たなエネルギーを注入している好例であると感じた。

【近藤敏浩】

山形市 Q1(キューイチ)を視察するに先立ち、早朝市内を歩いてみました。県庁や市役所、旧県庁である歴史的建造物等が集まる旅籠町は、建物の色調が茶・黒系統で統一され、長い歴史があり、且つ非常に落ち着いたハイセンスなまちであるという印象を持ちました。Q1 のベースとなった建物は国登録有形文化財の旧山形市立第一小学校校舎です。1927 年に建てられたアールデコ調の歴史的価値のあるものです。

Q1 は山形市が推し進める「創造都市推進事業」の拠点としてクリエイティブ性の高いデザインであるとともに、クリエイティブな人材や企業を繋げるプラットフォームを目指し、しっかり実現させていると感じました。本市でも額田地区において複数の学校が廃校となり、何らかの形で活用がなされていますが、Q1 はその先進事例となりうると考えております。立地が違うとお考えもある事は承知しておりますが、他にも例えば京都市のコトス等、北山杉の産地として林業で栄えた中山間に位置して成功している例もあります。雨山小学校や千万町小学校、鳥川小学校だけでなく、今後廃止が検討されている額田中敬信寮などでもこの Q1 の手法が有効と考え提案します。

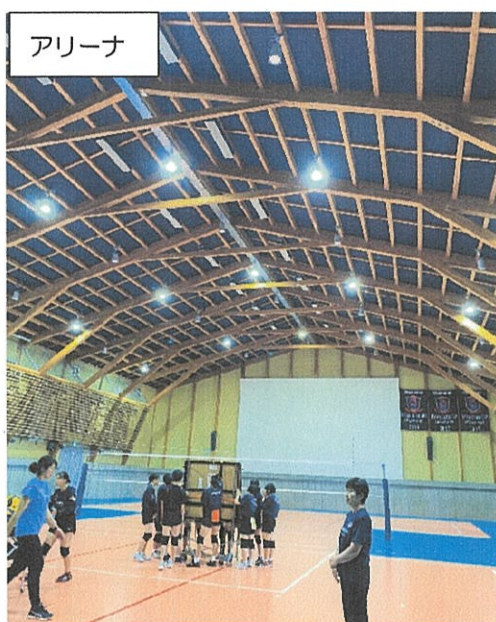
■視察先：岩手県紫波町

8月2日（水）

紫波中央駅前都市整備事業「オガールプロジェクト」についてのまとめです。

1) プロジェクトの概要：

紫波中央駅前の町有地 10.7ha を中心に展開される都市整備事業。主要な施設として、オガールをテーマにした宿泊施設「オガール inn」、日本初のバレーボール専用体育館、フットボールセンターなどが含まれている。地域振興と観光促進を目的とし、オガール文化の継承と新たな文化交流拠点の形成を目指している。



2) 事業の特徴：

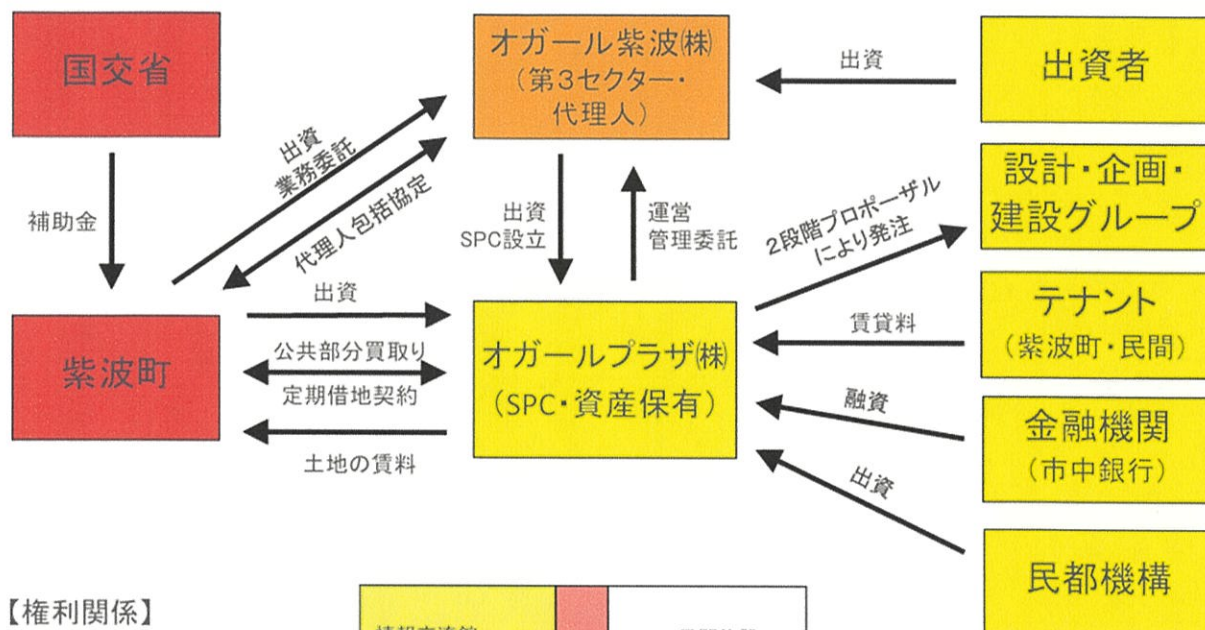
プロジェクトの特徴は、専門性の高いスポーツ施設の設置と観覧席を設けない斬新なアプローチである。これにより、大規模なスポーツイベントに依存しない独自のスポーツ人材育成エリアを構築している点が注目される。また、地域資源を活用した「紫波マルシェ」を通じた地域経済の活性化や、オガール広場を中心としたイベント開催による地域交流の促進も特筆される。

3) プロジェクトの波及効果：

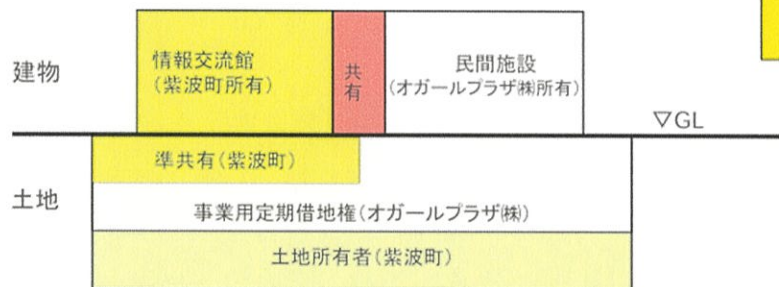
オガールプロジェクトの波及効果は多岐にわたる。地域経済への直接的なインパクトとしては、紫波マルシェを通じた地元産

品の販促や地域住民の収入増加が挙げられる。さらに、観光客誘致による周辺施設の利用促進や地域コミュニティの活性化も期待される。地域特産品の認知拡大や文化交流の促進により、紫波市の魅力向上と地域の持続的な発展に寄与すると見込まれる。

オガールプラザ(官民複合施設)の事業ストラクチャー

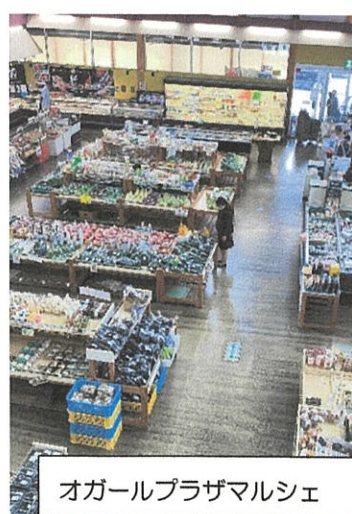


【権利関係】



- ※1 公共施設敷地の未利用部分を民間に貸し付け、官民合築施設とする。
 ※2 官民の所有部分をそれぞれが運営維持管理する。共有部は専有面積割合で維持管理費を負担する。

© 2009-2016 TOWN SHIWA



ii) 所感・岡崎市への提言

【杉山智騎】

紫波中央駅前の町有地 10.7ha を中心とした紫波中央駅前都市整備事業「オガールプロジェクト」。実際にオガール inn に宿泊し、オガールを体感した。まず注目したのは日本初のバレーボール専用体育館。人材育成を目的としたもので、合宿やスポーツアカデミー事業などで利用する。そして、フットボールセンター。こちらも人材育成専用グラウンド。つまり、体育館もグラウンドも観覧席がない。これには正直驚いた。人を集める目的なら、大人数が収容できる観覧席を安易に考えて



オガールプラザをバックに

しまう。そこを逆転の発想でとがった専門性を追求することで競合しないエリアを構築することができた。そして、オガールエリアの資金調達という重要な役割を担っている紫波マルシェ（農産物直売所）。地元の農産物に加え、岩手県の名産や鮮魚・精肉・スイーツもある。オガールタウンや近隣に住んでいる方々の生活を支えていることがわかる。交流の場として、大きな意味を持っているオガール広場。ここでは定期的にイベントを行い、数千人レベルの集客を実現させている。オガール自体は統一感のある景観で駅からも近く、生活するために必要なものはほとんどあり、全て徒歩圏内と利便性に富んでいる。紫波町公民連携基本計画を綿密に施行し、事業を進めてきた。本市に関しては QURUWA プロジェクトが最終局面となっているが、肝となるホテルとコンベンションセンターが頓挫となった。これから、どのように来岡を促進し、外貨を稼ぐ仕組みを構築するのかを全庁をあげて最重要プロジェクトとして推進する必要がある。とがった発想、他自治体ではやっていないもの、岡崎ならではのものに注力し、唯一無二となるものを意識していただきたい。

【小田高之】 紫波中央駅前の町有地 10.7ha を核とした「オガールプロジェクト」では、オガールを体験できる宿泊施設「オガール inn」を訪れた。プロジェクトの特徴として、日本初のバレーボール専用体育館やフットボールセンターがあり、観覧席のない施設設計に驚いた。これにより、競合しない独自のス



紫波マルシェ入り口

スポーツ人材育成エリアが構築されている。また、地域振興の一環として重要な役割を果たしているのが、農産物直売所「紫波マルシェ」であり、地元産品や岩手県の名産品を提供している。オガール広場は交流の場として活用され、数千人規模のイベントも定期的で開催されている。全て徒歩圏内に必要な施設が整っており、地域との公民連携を重視した計画が進められている。

特定の目的を持つ施設を建設することにはさまざまなハードルがあると思うが、全国か

ら人を集める施設を建設するさいは、ターゲットを明確にしないと、これからの時代は厳しいと感じた。

【近藤敏浩】

オガールを視察したい。同会派の議員の強い思いを実現すべく、視察予定を立てました。紆余曲折あり、何とか実現した紫波町訪問ですので、できるだけ多く、見られるだけ見ようとの思いでオガールに宿泊しました。

朝早く、明るくなるのを待ってオガールタウン日詰二十一区画へ出掛けました。オガールタウン日詰二十一区画は町有地に高気密高断熱の住宅を建設した宅地分譲事業です。町内の14社を指定事業者とする公民連携の好事例でもあるのですが、住宅の

高断熱はエネルギー消費量の削減になり、ゼロカーボンに向けた取り組みには不可欠なものです。外観を見ても断熱窓の違いは分かりますが、早朝でもあり中を見学させていただく予定は有りませんでした。鉄道駅(gate ガール)や役所、アリーナ、店舗などが集まっているオガールから離れますと農村風景が広がり、銭形平次をモチーフにした銘板がはまった紫波南大橋がかかる一級河川北上川などの風景も自然が残った心に染みる風景です。

オガールを経営する会社の方にお話を伺いました。オガールは公民連携、農村と都市、デザイナーズタウン、の3つのキーワードがポイントとなる。公設民営の地元産品を扱うマルシェが平日にもかかわらず大変賑わっており、この利益が運営費を賄うとの事です。また屋根を支える木製の構造材がデザイン性を醸すアリーナは、窓と観客席が無い、断熱性の高い、冷暖房におけるエネルギー消費量の低い、脱炭素に向けた建物です。床材にオリンピックに採用されているタラフレックス(フランス gerflor 社製)を使用し世界を見据えたものとなっています。宿泊施設オガールインを併設しており国内プロバレーボールチームが合宿をします。また、飲食店やクリニック、保育園等が入居する店舗棟も賑わいを見せ、正に

農村と都市の融合がそこに有ります。

オガールは町有地であり、本市の駅前に同じ事を当てはめる事はできないが、OTO リバーサイドテラスはデザイン性が高くオシャレな空間だと考えます。ヒガオカの開発の方向性はどうか気になるところです。公表されているものを見る限り柔軟な発想を集めるためとは承知しておりますが、それでも不安になります。まちのデザインでまちの活性化が決まることを肝に銘じて、公民連携でしっかり協議していただきたい。



郊外に広がる田園風景



紫波南大橋